

くしろ家畜衛生

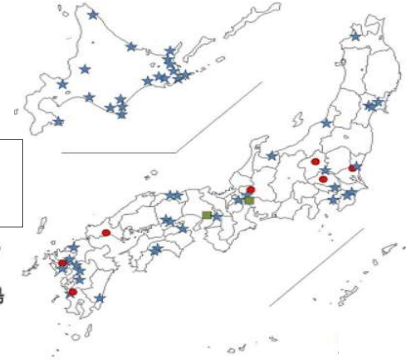


高病原性鳥インフルエンザに要警戒！

今シーズン（令和5年10月以降）国内の家さん農場での高病原性鳥インフルエンザの発生は、11月25日に1例目が確認されて以降、**7県7事例発生し、約59万羽が殺処分対象**となりました（令和6年1月30日時点）。

今シーズン発生状況

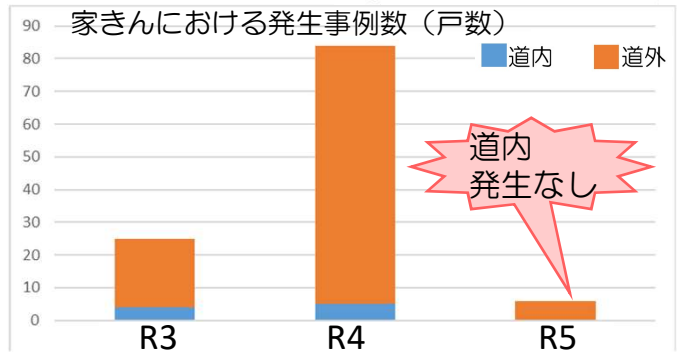
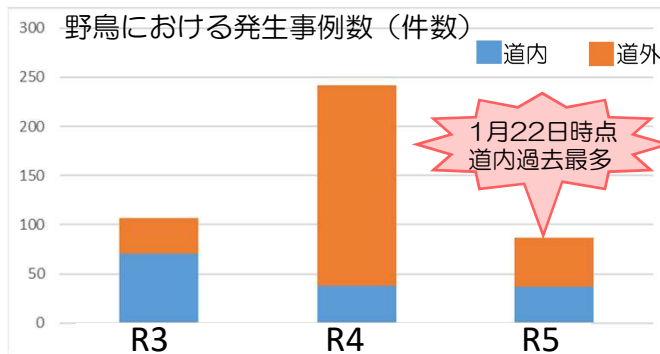
● 家さん
★ 野鳥
■ 飼養鳥



R3シーズン以降の野鳥、家さんの発生状況

※各シーズンは10月から翌年9月までの集計

※R5シーズンは、R6年1月22日までに高病原性と確認された件数



（出典：農林水産省HP）

今シーズン（1月22日現在）の国内における野鳥からの高病原性鳥インフルエンザウイルス検出事例は、発生件数が過去最多となった昨シーズンの半分以上です。しかし道内においては**34事例**と1月22日時点では過去最多の検出事例数となっています。管内でも釧路市、厚岸町、標茶町、浜中町の野鳥から合計10事例検出されていますが、飼養衛生管理の徹底により家さんでの道内発生を未然に防ぐことができます。

今後は渡り鳥の北帰行により本ウイルスがさらに道内に持ち込まれます。

R3シーズンは、1月22日以降に野鳥から多数の本ウイルスが検出され、4月15日から5月14日までに家さん農場でも4事例発生しました。

今後はさらに発生リスクが高まると危惧されます。

北帰行が終わる5月半ばまで最大限の警戒をお願いします！

平常時の2倍以上の死亡鶏の発生等、異状に気づいたときは、
速やかに家畜保健衛生所にお知らせください

対策のポイント

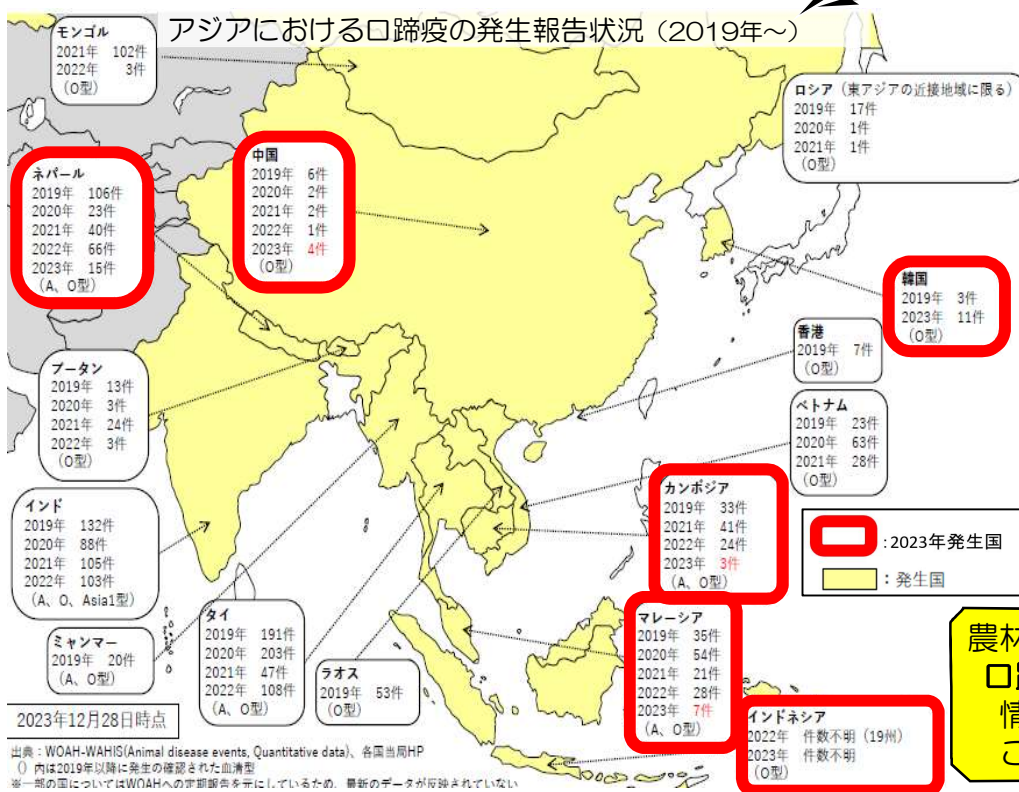
防鳥ネットや鶏舎の破損状況を点検し、
修繕等を行ってください



消石灰散布や消毒槽設置等による
消毒を徹底してください



口蹄疫 依然として周辺国で発生中



平成22年以降、国内において口蹄疫の発生はなく、平成23年2月5日付けで日本はWOAH（国際獣疫事務局）により「ワクチン非接種口蹄疫清浄国」として認定されています。

2023年においても、日本周辺国で口蹄疫が発生しており、依然として日本国内への侵入リスクが高い状況にあります。

家畜に本病を疑う症状を発見した場合には、当所へ連絡をお願いします。

農林水産省
口蹄疫の
情報は
こちら



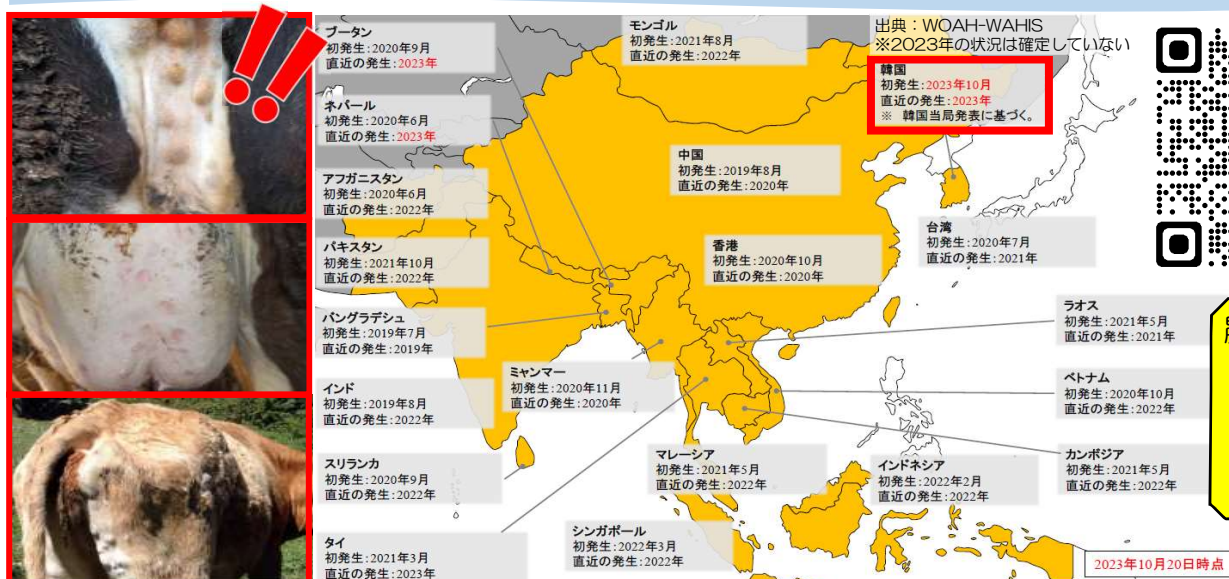
ランピースキン病（届出伝染病）知ってますか？

現在日本周辺の東アジア、東南アジアにてランピースキン病が拡大しており、**2023年10月、韓国で初めての発生**がありました。

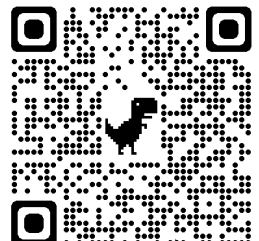
ランピースキン病とは？

- ランピースキン病ウイルスが原因となる感染症です。
- 牛と水牛に対して病原性があり、めん山羊には病原性がないと言われています。
- 全身（特に頸部、背側、脚部、外陰部など）に**数個～数百個の結節が観察**され、ほか食欲不振、発熱、泌乳量の減少や浮腫などもみられます。
- 伝播方法は、蚊、ハエ、ダニ等の昆虫による機械的伝播が主であることが知られています。
- ほとんどの消毒薬は本ウイルスに有効です。

日頃からの飼養衛生管理の徹底を継続するようお願いします



農林水産省
ランピー
スキン病
の情報は
こちら

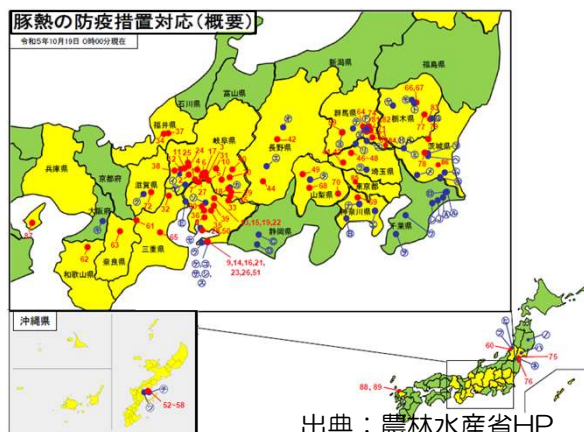


豚熱 九州で発生

令和5年8月、佐賀県において、平成30年の国内再発生以降、九州で初となる豚熱の発生が確認されました。佐賀県での発生を踏まえて、九州7県でワクチン接種が開始され、北海道を除く46都府県がワクチン接種推奨地域になりました。**接種地域から非接種地域への豚等の移動は制限されます。**

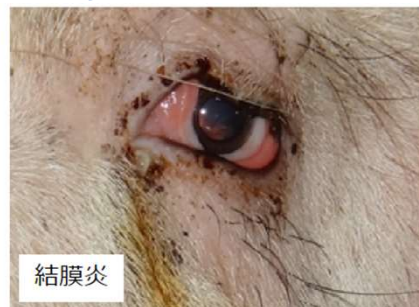
九州では野生イノシシの感染が確認されておらず、**佐賀県の発生事例は、人・物・車両を介した人為的な伝播によるものと推測**されています。そのため、**野生イノシシが生息しない道内においても、本病の侵入リスクが高い状況**です。

本病の侵入、発生を防ぐには、日々の飼養衛生管理の徹底が最も重要です。本ウイルスを農場に持ち込まないように、消毒や衣服等の交換など発生予防対策の徹底をお願いします。



特徴的な症状がなく、気がつきにくい疾病です！

発熱、食欲不振、元気消失、うずくまり、便秘に続く下痢、呼吸障害等
異状を発見したら、速やかな通報をお願いします！



重症例は後躯麻痺・運動失調・四肢の激しい痙縮などの神経症状、皮下出血による紫斑（耳翼、尾、腹部、内股部）を呈し死亡。

令和5年度 家畜伝染病予防事業実施状況(R5.12.31現在)

ご協力いただきました飼養者様、関係機関の皆様、ありがとうございました。

家畜伝染病予防法第5条に基づく検査

事業名	頭(羽)数	結果
①ヨーネ病検査 (乳用牛・肉用牛)	4戸 330頭	全頭陰性
	延123戸 10,963頭	4戸22頭陽性
②牛海綿状脳症検査	1,041頭	全頭陰性
③蜜蜂の腐蛆病検査	8戸 724群	全群陰性
④高病原性鳥インフルエンザ及び低病原性鳥インフルエンザ 強化モニタリング	3戸 30羽	全羽陰性
⑤牛のブルセラ症及び結核検査 (輸入牛及び種畜検査対象牛：ブルセラ症・結核) (流死産した母牛：ブルセラ症)	ブルセラ症 1頭 (流死産した母牛)	陰性

高病原性鳥インフルエンザ及び低病原性鳥インフルエンザに関する 特定家畜伝染病防疫指針に基づく立入検査

事業名	頭(羽)数	結果
⑥高病原性鳥インフルエンザ及び低病原性鳥インフルエンザ 定点モニタリング	1戸 50羽	全羽陰性



令和5年次 監視伝染病 発生状況

釧路管内
全道

令和5年1月～令和5年12月
令和5年1月～令和5年12月

区分	畜種	疾病名	釧路管内		全道	
			戸数	頭羽群数	戸数	頭羽群数
法定伝染病	牛	ヨーネ病	25	147	210	945
	めん羊	ヨーネ病			2	9
	山羊	ヨーネ病			2	20
	鶏	高病原性鳥インフルエンザ			3	6
届出伝染病	牛	牛ウイルス性下痢	4	4	23	60
		牛伝染性リンパ腫	14	14	277	774
		牛丘疹性口炎			1	1
		破傷風			2	2
		気腫疽			1	1
		サルモネラ症	26	89	167	561
		ネオスポラ症			2	2
		アカバネ病			6	14
		牛伝染性鼻気管炎			3	5
	馬	馬鼻肺炎			10	10
	豚	豚丹毒			4	22
	山羊	山羊関節炎・脳炎			2	5
	鶏	鶏伝染性気管支炎			3	14
	蜜蜂	バロア症			18	439
		チョーク病			21	130

道内でアカバネ病が発生

令和4～5年、後志、空知、上川、留萌管内でアカバネ病が発生しました。道内での発生は平成23年以来となります。

疑わしい症状がみられた場合は、家畜保健衛生所までご連絡下さい。

【アカバネ病とは】

- 牛に死流産や異常産を引き起こすウイルス感染症です。
- ウイルスは夏～秋にかけて流行し、ヌカカ等の吸血昆虫により媒介されます。
- 異常産の発生時期は、ウイルスが流行した年の夏～翌年の春頃。
- 治療法はなく、媒介昆虫が活動を始める前にワクチン接種により予防が可能です。

体形異常子牛





定期報告の提出をお願いします

家畜伝染病予防法第12条の4により、家畜の所有者は飼養衛生管理基準を遵守し、毎年2月1日現在の家畜の飼養状況について、定期報告書により

家畜（牛、豚、馬、水牛、鹿、めん羊、山羊、いのしし）は4月15日、

家禽（鶏、あひる、うずら、きじ、だちょう、ほろほろ鳥、七面鳥）は6月15日までに管轄の都道府県知事へ報告することとなっています。

本報告は防疫上重要な報告であり、**定期報告書の未提出は罰則の対象となります。**

また、各種の補助金助成事業（畜産クラスター、ヨーネ病の自主検査・自主とう汰、牛伝染性リンパ腫及び牛ウイルス性下痢の対策等）においても法令遵守が条件となっています。

指定された期日までに提出するよう、お願いします。

【報告内容】令和6年2月1日時点の、家畜の飼養頭羽数、飼養衛生管理基準の遵守状況を報告してください

【届出様式】各市町村から飼養者あてに送付されます

【提出先】各市町村の指定された機関へ期日までに提出願います



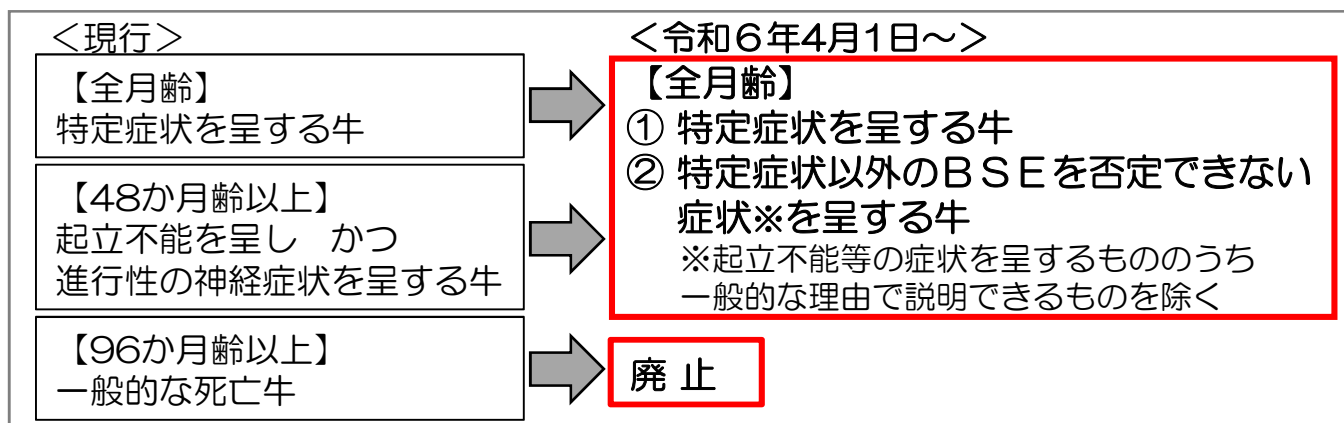
4月からBSEの検査が変わります

牛海綿状脳症（BSE）の発生が世界的に大きく減少する中、BSEの検査対象牛について国際基準が見直されるのに伴い、日本においても国内基準が見直されました。

「牛海綿状脳症に関する特定家畜伝染病防疫指針」及び関係省令が令和5年11月14日付けで一部改正され、令和6年4月1日付けで施行されます。

主な改正点

- ① BSEサーベイランスの検査対象となる牛の区分を見直し
- ② BSEの患畜と生後満12か月齢までに同居し、かつ、同じ飼料を給餌されていた牛については、BSEの疑似患畜としない



獣医師へのお願い

死亡牛のBSE検査を円滑に進めるために引き続き、**死亡獣畜処理指示書の適正な記載**や**検査対象牛の届出**などについて、ご協力をお願いします。

生乳中の抗菌性物質残留事例（釧路管内）

令和5年度は **9件** 発生（R5.12月末現在）

No.	発生月	飼養者の状況	原因	ミルクドクター
1	5月	多忙	誤搾乳 マーキング失念	判定前に出荷
2	5月	体調不良	誤搾乳 マーキング見落とし	未実施
3	6月	—	使用禁止期間終了後の検出 JA自主検査未実施	未実施
4	7月	多忙	誤搾乳 マーキング見落とし	未実施
5	9月	多忙	誤搾乳 搾乳ロボット入力失念	未実施
6	10月	多忙	誤搾乳 マーキング見落とし	未実施
7	10月	—	不明	—
8	10月	—	誤搾乳 治療牛と搾乳牛が混在	—
9	12月	多忙	誤搾乳 搾乳ロボット入力失念	判定前に出荷

5例は**飼養者が多忙**

7例は出荷前の**確認検査の未実施・検査結果の未確認**

忙しいときこそ要注意！

- ★作業者全員で治療牛を確認！
- ★搾乳ロボットの入力も2人以上で確認！
- ★出荷前の確認検査をお忘れなく！



病性検定におけるヨーネ病検査日程

年度内の検体受付締切日は次のとおりです。

締切日までの検体搬入をお願いします。



冬場は血液が凍ります
検体の保管は冷蔵庫で！！

- ☐ 牛の月齢 6カ月齢未満は血液検査受付不可
- ☐ 品種
- ☐ 性別



確認をお願いします

検体受付締切日		検査実施予定	採血推奨期間	
2月2日	(金)	2月5日 の週	1月27日 ～	2月2日
2月16日	(金)	2月19日 の週	2月10日 ～	2月16日
3月1日	(金)	3月4日 の週	2月24日 ～	3月1日
3月15日	(金)	3月18日 の週	3月9日 ～	3月15日



家畜保健衛生業績発表会が行われました

第64回全国家畜保健衛生業績発表会

農林水産大臣賞

令和5年9月28～29日、第64回全国家畜保健衛生業績発表会が東京都にて開催され、全国の家保から計48題の発表が行われました。

当所からは「様々な創意工夫により効率的に取り組んだサルモネラ検査対応」を発表し、審査の結果、**農林水産大臣賞を受賞しました。**

講評では、「培養液の改良等による検査法の開発は、大きな省力化、コストダウンにつながり画期的な非常に良い内容。」との非常に高い評価をいただきました。

本発表で発表した培養方法等は下記論文にて公表しています。

©Fujihara M, Sakazume N, Tagaino Y: Modification of semisolid medium for stab culture to isolate *Salmonella enterica* from rectal swabs, Jpn J Vet Res, 70, 29-32(2022)

©Fujihara M, Hayashi M, Hara K, Sakazume N, Tsukuda T, Tagaino Y: Verification of different methods used for isolating *Salmonella enterica* serovar Dublin from cattle feces, J Vet Med Sci. 85: 1077-1082(2023)

第71回家畜保健衛生業績発表会

令和5年10月11～12日、第71回家畜保健衛生業績発表会が札幌市にて開催され、全道14家保から計18題の発表が行われました。

当所からは「サルモネラ検査材料は乾燥すると分離限界が大幅に低下する」を発表しました。本発表では、翌日搬入される場合等に想定した、スワブからのサルモネラの検出感度に対する保存温度を検証しました。冷蔵・冷凍(-20℃)保存では10～100程度のサルモネラが付着していれば検出でき、室温保存でスワブが乾燥した場合は1,000以上必要であることが判明しました。

そのため、サルモネラの検査を当所に依頼する際は、当日搬入または冷蔵温度・乾燥しない状態での送付を推奨しています。休日を含んだ搬入が予定される場合は当所までご相談ください。



職員体制及び緊急連絡先

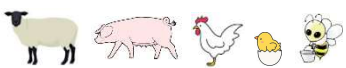
北海道釧路家畜保健衛生所 電話 0154-57-8775

FAX 0154-57-6125



釧路家畜
保健衛生所
HPです！

★休日・夜間の緊急連絡は、釧路総合振興局（電話0154-43-9100）まで

		所長 次長		菅野 宏 小川英仁			
指導課				予防課			
課長		成田雅子		課長		宮根和弘	
主査（薬事・安全）		山城 淳		主査（危機管理）		藤原正俊	
専門員		原 希和子		指導専門員		相川 文	
				専門員		武智茉莉	
				専門員		佃 拓磨	
						専門員 酒詰史子	
						専門員 松澤 滋	